

私は、今回、合唱指揮者として所属する日本合唱指揮者協会主催『発声指導者のための～発声指導法シンポジウム』(第20回北とぴあ合唱フェスティバル,2019年6月1日,北とぴあ つつじホール,司会は指揮者協会副理事長の辻秀幸氏)にパネラーとして招かれ、音声生理学専門家で本学会の竹田数章理事、声楽家の望月哲也氏と共に参加しました。

これまでも同じ内容のシンポジウムが開催されており、毎回、参加者である合唱指揮者と声楽家の皆さまの熱心さは格別なものでしたが、今回は特に、当日来られた学校の先生方や合唱指揮者の方々が『発声指導法』のノウハウについて渴望されておられるのがひしひしと伝わってきました。最後まで熱心に聴講され、次回を希望する沢山の拍手で終了しました。

因みに私は20数年前にも臨床音声学者で世界的な耳鼻咽喉科医師の米山文明元会長とタッグを組んで同じようなプログラムを神奈川でも数回行った事がありました。今回のシンポジウムのような声楽発声基礎知識を得る勉強の積み重ねが今の本学会にとっても最も大切ななと思っています。研修・研究→発表→反省→研修・研究→発表→の積み重ねの先には、本学会による「声楽発声コーチ認定」への道が見えてくると考えています。まずは、本学会内に声楽発声についての基礎知識が共通認識として在ることを目指したいと思います。そのことを魂のレベルで気づかせてくれた今回のシンポジウムであったことをご報告いたします。



右より 辻秀幸・竹田数章・川上勝功・望月哲也の各氏